

おわりに

本論文の目的は、日本語構造伝達文法における構造モデルに基づく新しい図示法を使って中国語の句の意味構造を考察することにある。これは、日本語構造伝達文法の中国語への適用を試みることを意味する。

本論文の各章は、既発表の論文を1論文にまとめるために大幅に書き改めたものである。各章とその元になった論文を以下に記しておく。

第1章

「日本語構造伝達文法の中国語への適用—予備的考察—」（『大学院論文集』、第9号、杏林大学大学院国際協力研究科、2012年）

第2章

「日本語構造伝達文法の中国語への適用—主述句の記述的研究—」（『言語と交流』、第15号、言語と交流研究会、2012年）

第3章

「日本語構造伝達文法の中国語への適用—述目句の研究—」（『大学院論文集』、第10号、杏林大学大学院国際協力研究科、2013年）

第4章

「日本語構造伝達文法の中国語への適用—結果述補句の研究—」（『言語と交流』、第16号、言語と交流研究会、2013年）

日本語構造伝達文法の基礎になっている構造モデルを取り入れ、中国語の文の土台である句の意味構造を考察することは、まさしく未知の土地を開拓する作業であり、困難を伴う。基本概念を見直したり用語を吟味したりし、試行錯誤を繰り返してきた。2011年に「日本語構造伝達文法の中国語への適用—予備的考察—」を書き始めて以来、5年近くをかけてここまで来ることができた。

日本語構造伝達文法を提唱した今泉喜一先生は、筆者の恩師でもある。先生のおかげで、筆者は、ことばの研究の世界に入ることができ、研究の仕事に携わることができるようになった。中国語には“大恩不谢”（大恩は謝せず）ということわざがあるけれども、私は、本論文をもって先生の恩に少しでも報いたいと思う。